

六本木シンフォニーサロン Festival vol.4

「わ♪」の集い・ワタナベ会 【視聴用トラノマキ】

2021年9月5日(日) 14:00 開演

出演：渡邊 史(ソプラノ) 渡邊 公威(テノール) 黒木〔渡邊〕直子(ピアノ)
Miyack(アコーディオン) 松枝由紀子(ナビゲーター)

滋賀大学教育学部 渡邊 史 担当講義 参考資料 2021.09.05

教育現場において【音楽】の授業を展開するにあたり、以下のキーワードへの知見・体験は欠かせません。いくつかの用語について、(かなりの私見を交えて…) 解説します。

- **演奏** (英: performance, play) 音楽を奏でること。公衆の前にて、目的を持って音楽を奏すること。
- **コンサート** (英: concert) 音楽を演奏するイベントのこと。生演奏でなくても「コンサート」と呼ぶことはできる。録音音源を用いた「レコードコンサート」、コンサートを撮影したフィルムを上映する「フィルムコンサート」も、そのように呼ばれる。ロシアにおいては「詩の朗読会」もまた、「コンサート」と呼ばれる。
- **歌手** (英: singer, vocalist) 歌を歌うことを職業とする人。または歌唱行為をする、している人。
- **ソプラノ** (伊: Soprano) 西洋音楽における歌手の声域区分で、「女声の高い音域」を指す。器楽においては、同系の楽器の中で最も高い音域のものを指す。ソプラノ・リコーダー、ソプラノ・サクソなど。
- **テノール** (英: tenor 伊: tenore) 男声の最高音域。また、その声域の歌手。「テナー」とも。「混声合唱」においては、【高←女声 ソプラノ・(メソソプラノ) アルト/男声テノール・(バリトン) バス→低】と声ごとに種別を担う。
- **ピアノ伴奏** 音楽において「伴奏」とは、主要なパートを支持するためのサポート的部分を担うパートのこと。…ピアノという楽器は88の鍵盤を有し、高低・幅広い音域をすべて網羅するため、「伴奏楽器」として非常に多彩であり重用される。ときには主旋律より上方、ときには下方に、旋律やハーモニーを展開し、寄り添い、または前面に出て場を支配し…当意即妙に自身の役割を把握した上で奏しなくてはならないため、単なる「ピアノが弾ける人」には務まらない、高度なテクニックと優れた感性が必要とされる。著名な音楽コンクールでは「伴奏者賞」が設けられることも少なくない。「合唱コンクール」等においては「いい伴奏ピアニストがいるクラス」が有利であることは言うまでもないし、「音楽科を担当する教師」は「もっともらしくピアノ伴奏できる」ことが、大きくもとめられるのです！
- **アンサンブル** (仏: ensemble 日: 合奏) もとは、「一緒に、組み合わせ」の意味。音楽用語としては、2人以上が同時に演奏すること。
- **歌曲** (英: song 独: Lied 仏: chanson) 言葉(詩)と音楽が融合された、旋律的な歌唱のための楽曲。時代、国、地域により、言葉の扱いは違うが、いわゆるクラシック音楽の分野では、日本歌曲、ドイツ歌曲、イタリア歌曲… など言語ごとに分類したり、芸術歌曲、大衆歌曲、通俗歌曲 … のようにも用いる。
- **カンツォーネ** (伊: Canzone) イタリアにおいては「歌」を意味し、イタリア語によるポピュラー(大衆的)歌謡曲のことを指す。日本においては19世紀末から20世紀初頭に書かれたイタリアの大衆歌曲をカンツォーネと認識されることが多い。
- **オペラ** (伊: Opera) 演劇の一形態。音楽を伴い、セリフ部分の多くを旋律的に歌唱することで物語が進行する。大学における講義内で「クラシック的な発声を用いた歌唱」のDVDなどを視聴した場合、「きょうはオペラを初めて聴きましたが…」等とフィードバックを寄せる学生が散見されるが、実は、それは「オペラではない」!! そこに出演していた歌手は別の機会にオペラにも出演しているかもしれないが、あなたが視聴したのは「クラシック音楽を中心としたプログラムによるコンサート」なのです… 語の使い方には、注意が必要でありますぞ。
- **アリア** (伊: Aria) オペラ、オペレッタ、宗教曲、ミュージカル等において、主要な役に割り当てられた規模の大きい歌唱曲。登場人物の心情が最大限に吐露される、いわゆる「聴かせどころ」であり、歌手の最高のパフォーマンス「見せ場」である。
- **スタンダードナンバー** 時代を超えて長年演奏され、広く世に知られ・親しまれ、または多くのアーティストに取り上げられてきた楽曲のこと。主にポピュラー音楽の分野において用いる語。
- **映画音楽** 映画の内容・進行に合わせ、当該映画のために用意された音楽。映画それ自体の効果を高めるために用いられ、作品全体や場面場面を印象づけることを目的としている。近年、日本においては「ディズニー映画」「スタジオ・ジブリ映画」などが「人気の流行曲」になることも多い。
- **アコーディオン** (英: Accordion) 蛇腹式の「ふいご」によって楽器内に空気を送り、鍵盤の操作によって音を奏するリード(発振器)による「気鳴楽器」である。起源は中国の「笙」であり、この「空気がリードを振動させることによって多数の音を奏する仕組み」が18世紀、ヨーロッパにもたらされた。ハーモニカも、これと同様のシステムを用いて音を奏でている。19世紀初頭に「鍵盤を備えた楽器」として機械的に開発され、改良を重ねて現在に至る。「可搬式楽器」として非常に多彩な可能性をもち、教育現場でも幅広く用いられている。

*** Proglam ちょっと解説を添えて... ***

カンツォーネ **フニクリ・フニクラ** 曲：L.デンツァ（1846-1922）日本語歌唱訳詞：青木 爽・清野 協
1880年、ヴェスヴィオ山の登山鉄道（伊 Funicolare）開設にあたり、CMソングとして作曲された

日本歌曲 **浜辺の歌** 詞：林 古溪（1875-1947）／曲：成田為三（189-1945）… 中学校・音楽教科書に掲載
悲しくなったときは 詞：寺山修司（1935-1983）／曲：中田喜直（1823-2000）
松島音頭 詞：北原白秋（1885-1942）／曲：山田耕筰（1886-1965）

映画音楽 『慕情』より **“Love is a Many-Splendored Thing”** 曲：サミー・フェイン（1902-1989）
1955年に発表されたアメリカ映画の主題歌。第28回アカデミー賞歌曲賞を受賞。

カンツォーネ **帰れソレントへ “Torna a Surriento”** 詞：G.デ・クルティス（1860-1926）／曲：E.デ・クルティス（1875-1937）
1902年イタリア首相がソレントを訪れた際、歓迎のために、クルティス兄弟に作詞・作曲が依頼された。
中学校・音楽教科書に掲載。（どうも教育実習の期間に取り上げられることが多い…!!）

*** Intermission ***

TVアニメ『ベルサイユのばら』より **薔薇は美しく散る**
詞：山上 路夫 / 「瀬戸の花嫁」「翼をください」など、流行歌やCMソングなど、ヒット作品を数多く手掛ける。
曲：馬飼野康二 / 歌謡曲、ニューミュージックからアニメ劇伴など、幅広い音楽ジャンルで活躍。
TVアニメ「忍たま乱太郎」の音楽も担当

アストール・ピアソラ（Astor Piazzolla 1921-1992）
アルゼンチン出身の作曲家、バンドネオン奏者。タンゴ（ダンス音楽の一種）を元にクラシック、ジャズの要素を融合させた独自のスタイルを産み出し、その活動は「革命」として音楽シーンにおいて様々な評価にさらされた。今でも数多くのミュージシャンに多大な影響を与え続けている。**リベルタンゴ**は彼の代表作としてカバーが繰り返されている。**Tanti anni prima (昔むかし)**は、イタリア映画『エンリコ4世』（1939）の挿入曲。

オペレッタ『こうもり』より **時計の二重唱** 曲：ヨハン・シュトラウスⅡ世（1825-1899）
倦怠期の夫婦が、お互いにナイショで夜会にでかけ、恋のアバンチュールを楽しもうとする。主人公・アイゼンシュタインが声をかけたのは、仮面をつけた色っぽい婦人… その相手が、自分の妻とも知らず… ?!

オペレッタ『チャルダッシュの女王』より **山こそは我が故郷 “Heia, In Den Bergen”** 曲：E.カールマン（1882-1953）
ショウガールと貴族、身分違いの恋を下敷きにした恋愛ドタバタ芝居… 主人公の歌姫シルヴァが舞台上で披露する十八番（オハコ）のアリアを、観客たちは拍手と歓声で迎え讃える。

オペラ『リゴレット』より **女心のうた “La donna è mobile”** 曲：G.ヴェルディ（1813-1901）
女と見れば手当り次第のマントヴァ公爵が酒場で歌う、奔放な恋愛讃歌。「女の心は羽のように軽い…」
歌劇王ヴェルディの作品中、特に人気の高い、テノールのためのアリア。

ラ・クンパルシータ “La Cumparsita” 曲：G.ロドリゲス（Gerardo Matos Rodríguez 1897-1948）
作曲者の出身国 ウルグアイにおいては、第2国歌とされるほど親しまれている。原題はイタリア語の「Comparsa（仮装行列）」に由来し、カーニバルに参加する仮装行列のために作曲された。アルゼンチン・タンゴ、コンチネンタル・タンゴ双方においてレパートリー化され世界中でスタンダードナンバーとして愛されている。

オペラ『椿姫』より **乾杯の歌 “Libiamo ne' lieti calici”** 曲：G.ヴェルディ（1813-1901）
いつも胸元に白い椿を飾り「椿姫」と称される高級娼婦ヴィオレッタと、青年貴族アルフレードの恋愛悲劇。
第1幕、二人が初めて出会う華やかな夜会シーンにおいて、合唱とともに歌唱される有名なナンバー。

オペレッタ『メリー・ウィドウ』より **愛のワルツ** 曲：F.レハール（1870-1948）日本語歌唱訳詞：堀内敬三
「オペレッタ黄金時代」を創ったJ.シュトラウスに対し、「白銀の時代」と称されるレハールの代表作。
すれ違いの時を経て、偶然に再開した恋人たちの想いが、ワルツの調べに乗って交錯する。